

話題のニュートラック新製品情報・新情報

パネルバン…日本トレクス

断熱性能アップとボデー軽量化を実現させた ウレタンフォーム材採用の新パネルバン

日本トレクス(株)は、日本初の技術を導入した新タイプのパネルバンを発表した。

新しく生まれ変わったトレクスのフラットパネルバンは、オープンフォーム工法によるウレタンサンドイッチパネルを採用したもので、断熱性能の向上と軽量化による積載量のアップを実現させている。

断熱性能はこれまでのパネルバンに比べ20%アップさせている。従来のステンレス材に比べ断熱性能に優れたウレタンフォーム材を採用したことで、夏場の暑



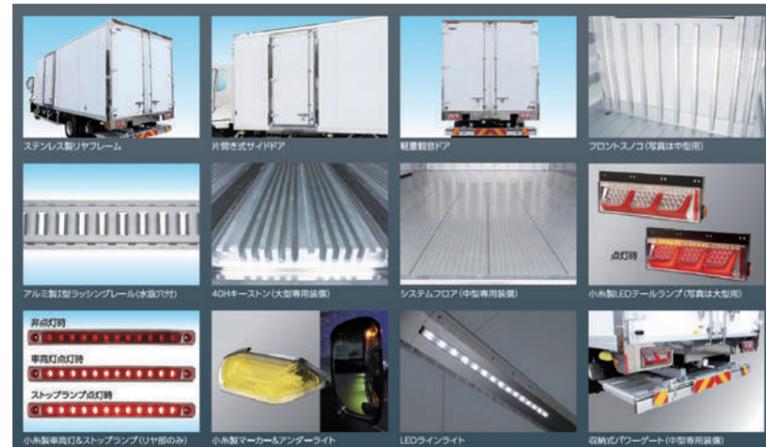
断熱性能の向上と軽量化を実現させたトレクスの新パネルバン



さらに、断熱性の向上を実現しながら、新開発の軽量断熱ドアの採用やステンレス製リヤフレームの軽量化、新型ボデーレール採用による軽量化など、ボデー構造を見直すことでボデー全体の軽量化を行い、積載量のアップも実現させている。

新しい冷蔵・冷凍輸送を提供できるトレクスの新パネルバンは、定温輸送品質の向上に貢献し、これからのコールドチェーン時代にふさわしいボデーだと言える。

い時期でも安定した庫内温度を維持することを可能にしている。また、ボデー全体の構造を見直すとともに、リヤドアとサイドドアの気密性の向上も徹底して行われている。断熱性能の向上により、重量のあるサブエンジン式冷凍ユニットの必要もなく、メインエンジン式冷凍ユニットでも従来と同等の庫内温度管理を可能にしている。これにより、燃費効率をアップさせると同時に、運行コスト低減を可能にできる。



トレクスの新パネルバンにはユーザーニーズに対応する豊富なオプションが用意されている

話題のニュートラック新製品情報・新情報

電動塵芥車…モリタホールディングス

電動駆動モードで排気ガスゼロの プレス式電動塵芥収集車を発売

(株)モリタホールディングスの連結子会社である(株)モリタエコノスは、このたび「2017NEW 環境展」に出展した「より安全に、使いやすく。街にやさしい!」をコンセプトに開発した新モデル「プレス式電動塵芥収集車 Press Master E-SVN (プレスマスターイー・セブン)」を2017年6月より販売開始する。

Press Master E-SVNは、ゴミ収集の効率化と負担軽減、安全性の改善を図ると共に、地域社会の環境に配慮したプレス式電動塵芥収集車で、独自のハイマウントリアパネルに灯火器などを集約し、後方からの視認性を高め安全性を向上させたことに加え、作業者の負担軽減を図るため、投入口の高さを約700mm以下に設計し作業性を向上させている。また、ボディ容積はクラス最大の4.3リューベに拡大し基本性能を高め、更に電動駆動モードでは排気ガスゼロ、連続作業回数はクラス最多の22サイクルを実現し、騒音レベルは68dBに低減させた。

作業効率を向上させる機能と美しいデザイン、そして地域社会の環境に配慮した電動駆動モードと安全性の向上は、様々な場面で機能を発揮する。

モリタエコノスは、今後もユーザーの声を大切に「より安全に、使いやすく。街にやさしい!」を追求して行くとしている。

プレス式電動塵芥収集車 Press Master E-SVNの販売価格(標準仕様)は9,500,000円(税別)からで、オプションとして車両前後左右に設置したカメラで、通常走行時、右左折時、後退時も車両の周囲状況を広く見渡せる塵芥収集車で初採用の「全周囲立体モニターシステム(安全運転支援システム)」などが用意されている。



電動駆動モードで排気ガスゼロを実現したプレス式電動塵芥収集車「Press Master E-SVN」

ボディ形状 & ボディ容積 4.3 m³
新たにリップ形状を採用し、プレス式に相応しい力強さと頑強さを実現(当社比5%アップ)

ハイマウントリアパネル
より広範囲への注意喚起機能と、軽快な印象を与えるスタイリング

アシスト扉 & ワンタッチバーハンドル
ワンアクションでロック解除ができ、片手で簡単に開閉することが可能

投入口高さ
積込時の作業者の負担を軽減し作業性を向上(約700mm以下)

ハイブリッド駆動システム & 騒音低減
クラス最多の連続作業回数22サイクル
電動モータ作動による騒音低減68dB
電動モータ作動時は排気ガスゼロ

キャビン内操作パネル
操作パネルで電動駆動/エンジン駆動の切り替えが可能。また、独自の機能である自動モードを選択すればバッテリーの残量に応じて自動で切り替わる

■主要諸元

架装型式	PA743E-E7	積込時間(秒/サイクル)	10~12	
適用シャシ	2トン車 TSG-XKU600X-TYUMC5	積込方式	プレス式	
車両寸法	全長(mm)	5,235	排出時間(秒)	約15
	全幅(mm)	1,850	排出方式	水平押出式
	全高(mm)	2,270	投入口容積(m ³)	0.55
最大積載量(kg)	長さ(mm)	2,290	投入口幅(mm)	1,430
	幅(mm)	1,730	投入口地上高(mm)	約700
荷箱	高さ(mm)	1,340	汚水タンク容量(L)	79
	荷箱容積(m ³)	4.3	動力源	エンジン/電動モータ

話題のニュートラック新製品情報・新情報

トラック改良…いすゞ自動車

大型「ギガ」と中型「フォワード」を改良 平成 28 年排出ガス規制と燃費基準に対応

いすゞ自動車(株)は、大型トラック「ギガ」および中型トラック「フォワード」を改良し、2017年4月27日より全国一斉に発売した。

いすゞの大型トラック「ギガ」は、大型トラック最高峰の安全性性能、実運行に強い燃費性能、情報モニタリングによる遠隔サポート、快適な運転環境、高積載の実現という5つの長所を誇る「5ツ星トラック」として、輸送企業の経営者やドライバーから高く評価されている。

中型トラック「フォワード」もまた、高い燃費性能や先進安全装置の搭載、優れた積載性・架装性など、充実した機能で高い評価を受けている。

今回の改良により、「ギガ」「フォワード」はともに2017年9月より適用される平成28年排出ガス規制に適合し、さらに先進安全装置の性能向上も果たしている。また、「ギガ」は「スーサー Gx」搭載車型における道路勾配に応じたギヤ制御機能の追加、「フォワード」はクラス初の燃費基準+10%を達成し、さらにカーゴ系主要車型に安全装置を標準化するなど、それぞれの商品力に一層磨きがかけられている。

■主な特長

【大型トラック「ギガ」、中型トラック「フォワード」共通】

・最新の排出ガス規制への対応エンジンの改良と排出ガス後処理装置の性能向上により、長所である優れた燃費性能はそのままに、平成28年排出ガス規制に適合。

・常に先を行く安全性性能プリクラッシュブレーキのミリ波レーダーおよびカメラのターゲットロックオン性能を向上させ、減速効果を高めた。これにより、2017年11月より適用される最新の安全法規に対応。

【大型トラック「ギガ」】

・地図情報を活用したギヤ制御機能「Smart グライド+ g」の新規投入自動式変速トランスミッション「スーサー Gx」搭載車について、地図情報を活用したオートクルーズ機能を新たに追加。地図情報とGPSにより先行道路の勾配を予測し、適切なギヤ段を自動選択。燃料を節約し、より高いレベルの省燃費クルーズを可能にする。「スーサー Gx」の設定は車型により異なる。

・車型展開の拡大 GVW20t クラスの6×4 ミキサに、6NX1 エンジン搭載車を新たにラインアップ。軽量な6NX1



いすゞの大型トラック「ギガ」



大型トラック「ギガ」運転席



プリクラッシュブレーキなどの性能向上により安全性が一段と進化した

エンジンを搭載することで、最大混合容量 4.4 リューベを実現。また、発進駆動力にすぐれた 9 速ワイドレンジトランスミッションを採用。

・全車でヘッドランプと室内灯を LED 化し、長寿命化と省電力化、そして視認性の向上を実現。メーター照明も常時点灯化とし、視認性向上と安全運転に貢献。

・G カーゴでは、LED リヤコンビランプも標準装備。大型カーゴ完成車シリーズ「ギガ G カーゴ」では、LED リヤコンビランプも標準装備とした。従来のバルブ式に比べて発光面積が大きく、瞬時に点灯し、後続車への迅速な意思伝達を実現。追突事故抑制に貢献。

【中型トラック「フォワード」】

・優れた燃費性能がさらに進化。4HK1 系エンジンのターボシステム、燃料噴射、冷却に至るまで広範囲な見直しを実施し、燃費性能を大幅に高めた。これにより、ecostop (エコストップ) 付き GVW 8t ~ 14.5t の 4 × 2 全車が中型クラスでは初となる燃費基準+10%を達成。

・先進安全装置のさらなる拡充。プリクラッシュブレーキ、ミリ波車間ウォーニング、車線逸脱警報(LDWS)、電子式車両姿勢制御システム(IESC)を、全車に展開を拡大。さらに GVW8t・11t のカーゴ系主力車型についてはプリクラッシュ

ブレーキをはじめとする先進安全装備を全て標準化、GVW14.5t 以上には電子式車両姿勢制御システム (IESC) を標準化した。

■目標販売台数(国内)

- ・ギガシリーズ…10,000 台/年
- ・フォワードシリーズ…18,000 台/年

■東京地区希望小売価格

①◇車型：2PG-CYJ77C、◇主な仕様：平成28年度排出ガス規制適合、平成27年度重量車燃費基準+5%達成、Gカーゴ・GVW25t車、フルキャブ・エアサスペンション、日本フルハーフ製ウイングバン完成車、

◇エンジン/ランスミッション：6UZ1-TCS 279kW (380PS) / 12速 Smoother-Gx…24,215,760円(消費税込)

②◇車型：2RG-FRR90S2、◇主な仕様：平成28年度排出ガス規制適合、平成27年度重量車燃費基準+10%達成、Fカーゴ・GVW8t車、フルキャブ・リーフサスペンション、日本フルハーフ製ウイングバン完成車、◇エンジン/ランスミッション：4HK1-TCS 154kW (210PS) / 6速 Smoother-Fx…12,078,720円(消費税込)



いすゞの中型トラック「フォワード」

話題のニュートラック新製品情報・新情報

テールゲート…新明和工業

ゲートの全溶接により防錆力を向上 「すいちよくゲート」の新モデルを発売

新明和工業(株)は、テールゲートリフタ「すいちよくゲート」のリフト能力「600kg」及び「800kg」サイズの新モデルを2017年5月1日に発売した。

これまで断続溶接を行っていたテールゲートを、新モ

デルでは全てのサイズのテールゲートにおいて全溶接を採用することで、防錆力を大幅に向上させている。また、テールゲートの接地面に専用クッションゴムを設けることで、接地時の衝突音とテールゲートへの衝撃を低減さ



テールゲートリフタ「すいちょくゲート」の新モデル



パワーユニットがクロスメンバーの中に収納されている

せた。このほか、これまでテールゲート本体から独立していたパワーユニットを、クロスメンバーの中に収納したことで、空いたスペースへの工具箱やステップ等の取付自由度が高まっている。

テールゲートリフタのトップメーカーである同社は、製品性能、品質の更なる向上及びニーズに適した製品ラインアップを図ることで、ユーザーにとってより価値のある製品の提供に努めて行くとしている。

なお、リフト能力「1000kg」サイズの「かくのうゲート」についても4月より新モデルを販売している。

■「すいちょくゲート」の特長

(1) テールゲートの防錆力の向上

全てのサイズにおいて全溶接を採用。従来の断続溶接では長期間の使用において溶接の間から錆汁が発生することがあったが、全溶接では錆の発生が抑えられるため長期間にわたり安心して利用できる。

テールゲートの接地面に専用クッションゴムを採用することでテールゲートの接地時の衝突音低減とともに、接地する側(道路、床等)を傷つけないように配慮。また、テールゲート側も傷が付きにくくなることから錆の発生が抑えられる。

(2) 利便性の向上

パワーユニットをクロスメンバーの中に入れたことにより、これまでのパワーユニットの取付位置である車両左舷側の後方にスペースが空き、ステップや工具箱等の追加取付が可能となった。

(3) 架装性の向上

パワーユニットをクロスメンバー内に収納したことで架装時にパワーユニットの取り付けを不要にした。

テールランプの取り付けは、車体メーカー各社のテールランプ用の部品を使ってボルトでの取り付けが可能。このため、架装時に視認角等の法規を守りながら位置合わせをする作業を不要としている。

(4) メンテナンス性の向上

クロスメンバー内に収納したパワーユニットはクロスメンバーから取り外すことなく簡単に引き出すことができ、作動油交換やバルブ交換が容易に行える。

■主要諸元

- ・架装型式…RE06-1030 / RE08-1030
- ・昇降能力…600kg / 800kg
- ・適応シャシ…1.5 ~ 4.5t 級 / 2 ~ 4.5t 級
- ・適応床面地上高…690 ~ 1200mm
- ・ゲート長…830mm (STD) / 1000mm (STD)
- ・ゲート幅…1580 ~ 2370mm
- ・ゲート材質…SS400 (縞鋼板)
- ・昇降時間…5 ~ 15 秒
- ・昇降機構…油圧シリンダー+ワイヤー
- ・動力装置…パワーユニット+車両バッテリー
- ・電源電圧…DC12V、DC24V

■販売価格(シャシを除く完成車価格)

- 2t 車級：本体、取付け費込み、税抜き
- ① RE06-1133 (ゲートサイズ 1580 × 830) … 509 千円～
 - ② RE08-1133 (ゲートサイズ 1580 × 1000) … 669 千円～

■販売目標

3,200 台 (2017 年度 RE06 及び RE08)

商用車テレマティクス「MIMAMORI」がフルモデルチェンジを実施

いすゞ自動車(株)は、商用車テレマティクス「MIMAMORI」の車載コントローラー及び専用 WEB 画面を全面刷新し、2017 年 5 月中旬より全国一斉に発売した。

「MIMAMORI」は、データ通信とインターネットを活用し、走行中の商用車と事務所を接続し、遠隔で車両の運行情報(燃費、CO₂・NOx・PM の排出量、車両現在位置情報、ドライバーの運転操作情報など)を収集、解析するクラウドタイプの運行管理システムである。今回、「MIMAMORI」に「エコドライブトレーニング」や「ジオフェンス入出お知らせサービス」などの新たな機能を追加すると共に、「車両位置 AUTO 連続モード」や「運行軌跡サービス」など動態管理機能を標準サービス化し、商品力の向上を図った。

いすゞは今後も商用車テレマティクス「MIMAMORI」を通じて、安全と環境に配慮した輸送を支えるとしている。

■「MIMAMORI」の主な特長

(1) 新 MIMAMORI コントローラー (スイッチタイプ デジタコ 国土交通省型式指定番号 TDII-44)

MIMAMORI コントローラーを 10 年ぶりにモデルチェンジ。従来の使い勝手はそのままに、ディスプレイに有機 EL を採用。ドライバーシートからの視野角による見づらさを解消し、視認性を向上。

内蔵データ通信モジュールは、従来の 3G 方式から LTE 方式へ変更し、データ送信スピード向上。

(2) 新お客様専用 WEB 画面

アイコンからの直感的な操作を可能とした新しいデザインに変更。画面遷移の階層を簡略化し、スムーズな作業性を実現。

(3) 新規追加サービス・エコドライブ (トレーニング 新型 MIMAMORI コントローラー専用サービス)

ドライバーのエコドライブ習得をサポートする新サービス。エコドライブ定着を効率的かつ継続的に進められるようなメニューを設定。

【主な指導サイクル】

- ① 運転の改善ポイントを明確化…運行データをもとに作られる「エコドライブトレーニングレポート」が、運転のクセや改善点を客観的に分かりやすく解説。
- ② 運転中、その場でアドバイス…エコドライブが実践できると、「アイドリングおさえていますね」など良かった

点を音声で伝える。また、実践できていない場合は「スピード出しすぎですよ」などの音声と警告音によって運転改善を促す。

③ エコドライブへの意欲を引き出す…運行形態を 12 のセグメントに分類し、セグメント別の全国ランキングや事業所内ランキングを提示。10 段階のエコドライブ等級表示機能とあわせて、ドライバーのエコドライブに対する意識向上が期待できる。

(4) サービスメニューの追加・改良

・動態管理機能の拡充…従来オプションサービスで展開していた「車両位置お知らせ AUTO 連続サービス」「運行軌跡サービス」を標準サービスに変更し、動態管理メニューの充実を図った。

・車両位置お知らせサービス…選択した車両を地図上で自動的に追尾する自動追従機能と、速度超過などの状況を地図上のリスト部分にお知らせする機能を追加。

・運行軌跡サービス…車両の運行軌跡を、運行中でもアニメーションで確認できるようになった。アイコン色の変化で、車両の軌跡上の通過時間をわかりやすく表示。

※その他サービスメニューについても、WEB 画面刷新に伴い視認性と操作性を向上した。

■目標販売台数

◇ 10,000 台 / 年 (国内)

■販売価格 (税込)

◇ 初期導入価格…110,970 円 / 台

(取り付け、設定工賃は別途必要)

◇ 月額ご利用料金 972 円 / 台

◇ オプションサービス

・インターネットデジタコ…798 円 / 台

・温度お知らせ…540 円 / 台

・指定位置外ドア開お知らせ…324 円 / 台

・TDII-44 デジタコ解析ソフト…10,285 円 / 事業所



フルモデルチェンジされた商用車テレマティクス「MIMAMORI」のコントローラー

生ごみ臭をフルーティーな香りに変化 塵芥車用臭気対策剤を発売

新明和工業(株)は、生ごみの臭いを一瞬でフルーティーな香りに変える塵芥車用臭気対策剤「デオマジック 香り de まじっく」と、それを効率良く塵芥車の庫内に自動散布する噴霧装置を2017年6月上旬に発売する。

発売に先駆け、「デオマジック 香り de まじっく」と専用噴霧装置付の塵芥車を、2017年5月23日から26日の間、東京ビッグサイトで開催された「2017 NEW 環境展」の新明和工業ブースで公開した。

なお、新明和グループにおける特装車向け「デオマジック」関連商品は、東邦車輛(株)が2016年に商品化した衛生車向けの臭気対策潤滑油「デオマジック VC1 オイル」に続く2例目となり、「デオマジック」を用いた塵芥車用臭気対策剤としては日本初となる。



臭気対策剤を塵芥車庫内に自動散布する噴霧装置(左)とハンドスプレー(右)

塵芥車市場でトップシェアを誇る新明和工業はこれまで、収集作業従事者の労働環境をより良くするため、生ごみの収集過程で生じる臭気の改善に取り組んでいる。そうした中、シキボウ(株)(清原幹夫社長)と山本香料(株)(山本芳邦社長)が2011年に開発した消臭技術「デオマジック」の販売代理店で、同技術の用途開発に積極的に取り組む凸版印刷(株)(金子真吾社長)から、新明和工業が「デオマジック」を活用した課題解決の提案を受けたことから、4社による商品化プロジェクトがスタートした。

生ごみは、その内容や気温によって「臭い」の質や程度が著しく変化することから、「デオマジック」の効果に汎用性を持たせるため、収集の現場に足を運び、実際の「臭い」を集め、都度「デオマジック」の配合比率を変えて繰り返し検証を行った。この検証結果をもとに生成した試作品を用いてアンケートを実施したところ、生ごみの臭いが「良い香りに変化した」と「91%」の人が回答するなど、一定の効果を確認した。さらに、収集作業者の意見も反映したうえで最も効果的な配合

比率を編み出し、今般の塵芥車用臭気対策剤「デオマジック 香り de まじっく」を完成させている。

また、新明和工業では、「デオマジック 香り de まじっく」を効果的かつ効率良く噴霧できるよう、その量や位置、頻度を検証し、塵芥車専用の噴霧装置を開発した。なお、この噴霧装置は、新車販売時のオプションとして設定するほか、使用中の塵芥車にも後付け搭載が可能となっている。

◇専用噴霧装置による噴霧

専用噴霧装置に、ポリ缶タイプの濃縮液を水で20倍に希釈して充填し使用。専用噴霧装置は、新車購入時にオプションとして選択、および購入後の車両に後付けも可能。付属タンクを満杯にした状態で、約4分30秒(およそ1日分に相当)噴霧を繰り返すことができる。なお、販売目標は80台(2018年度、新車購入時のオプション、購入後の車両への後付けの合計)としている。

◇専用噴霧装置本体販売価格…135,000円(新車への装着時の標準価格、消費税別)

◇濃縮液…38,000円/缶(17kg入りポリ缶詰め、消費税・送料別)

◇ハンドスプレーによる噴霧

そのまま使用できるハンドスプレータイプ(480ml入り)で直接噴霧して使用。

◇ハンドスプレー販売価格…690円/本(480ml入り、販売単位:18本入り/箱、消費税・送料別)



東邦車輛が商品化した臭気対策潤滑油「デオマジック VC1 オイル」の案内パンフ

日本初の電気トラック用急速充電設備開設 「eCanter」発表に向け充電インフラを川崎工場に

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、環境に優しい電気小型トラック「eCanter」の量産開始を前に、川崎工場内に充電インフラとして、日本初の電気トラック用急速充電設備を開設し先日、政府関係者、川崎市など関係者が招かれ記念式典が実施された。

記念式典でMFTBCのマーク・リストセーヤ代表取締役社長・CEOは、「私は、今後電気トラックが今後の都市内の配送を担うと確信しています。2010年から電気トラックの開発試験を行って参りましたが、今年9月に「eCanter」を発表します。そして、三菱ふそうは、電気トラック分野におけるフロントランナーとなります。また、東京のような巨大都市において、このような充電設備は、電気トラックの普及に欠かせないものとなります。当社は、日本政府、充電設備の普及に協力いただけるパートナーの方々、そして電気トラックを導入いただくお客様とともに、地球環境の改善に努めてまいりたいと思います」と述べた。

現在、日本国内の電気自動車向け急速充電設備は、約7000ヶ所(CHAdeMO協議会調べ、2017年1月11日現在)設置されている。その多くは、乗用車向けとして、商業施設、高速道路のサービスエリアなど幅広い場所に設置されており、乗用車のEV・PHVの普及に大きく貢献している。MFTBCは、今後量産を予定している電気トラック「eCanter」の販売を前に、日本国内で初めて電気トラック用の急速充電設備を川崎工場内の2ヶ所に設け、電気トラックのユーザーが利用できる環境を整えた。

MFTBCの松永和夫代表取締役会長は、「私共は、物流ビジネスにおいて、排出ガスゼロの物流を行う、電動トラック・バスの開発を一つのゴールと定めております。都市をよりクリーンで、静かな空間にする為に、パリ議定書の合意においても、政府・行政関係、そして物流関係のお客様に対して、電気トラック普及の為に充電設備の拡充へのご理解、ご支援を賜りたいと考えております」と語っている。

なお川崎工場には、最大出力680kW、面積5000㎡の太陽光発電施設が導入されており、CO₂ゼロの充電環境が整っている。

今回の式典に際し、経済産業省製造産業局の糟谷敏秀局長は、「電気トラックは、排気ガスを排出しない、騒音が少



日本初の電気トラック用急速充電設備開設記念式典(左から、島国土交通省自動車局長、糟谷経済産業省製造産業局長、リストセーヤMFTBC CEO、松永MFTBC会長、川崎市福田市長)

ないというメリットがあり、市街地での近距離配送など担う物流企業での導入が期待されています。電気トラックの普及のためには、充電インフラがカギとなります。今後、充電インフラ補助金の制度運用に当たっては、トラックも含め、幅広い主体が利用できる充電インフラを全国に充実できるよう検討を進めていきます」と述べた。

また、川崎市の福田紀彦市長は、「私たちの生活になくってはならないトラックですが、地球温暖化対策や大気汚染対策が世界的な時代の要請となる中で、今回、環境に優しい最先端の電気トラックが「環境先進都市」を謳うこの川崎の地で開発され、生産までされるということは、私たち行政のみならず市民にとっても大変うれしいことと考えております。急速充電設備の普及に向けては、両者で連携・協力して取り組んでまいりたいと考えております」と祝辞を述べた。

■川崎工場電気トラック向け急速充電設備の概要

◇名称: EV Power Charger (EV パワーチャージャー)

◇住所: 川崎市中原区大倉町10(三菱ふそうトラック・バス(株)川崎工場内)2カ所

◇稼働時間: 24時間(予定)

◇充電器仕様: CHAdeMO方式(出力: 50kW、直流50-500V、125A)7台、CHAdeMO/COMBO方式併用(出力: 50kW、直流50-500V、125A)1台

◇充電スペース: 小型トラック用4台×2カ所



急速充電設備のロゴマーク

話題のニュートラック新製品情報・新情報

水素ステーション…協業各社

戦略的なステーション整備を目的とする 協業での新会社設立を検討

トヨタ自動車(株)(豊田章男社長)、日産自動車(株)(西川廣人社長)、本田技研工業(株)(八郷隆弘社長)、JXTG エネルギー(株)(杉森務社長)、出光興産(株)(月岡隆社長)、岩谷産業(株)(谷本光博社長)、東京ガス(株)(広瀬道明社長)、東邦ガス(株)(冨成義郎社長)、日本エア・リキード(株)(矢原史朗社長)、豊田通商(株)(加留部淳社長)、(株)日本政策投資銀行(柳正憲社長)の計 11 社は、このたび燃料電池自動車 (FCV) 向け水素ステーションの本格整備に向けた協業の検討に関する覚書を締結した。

今回の覚書は、水素・燃料電池戦略協議会「水素・燃料電池戦略ロードマップ」(2016年3月22日付改訂)の官民目標(2020年度までに水素ステーション 160 箇所の整備、FCV の 4 万台普及など)を踏まえ、協業 11 社を中心にオールジャパンでの協業により FCV 普及初期における水素ステーションの本格整備の検討を加速させるべく、合意・締結したもの。

覚書の締結は、FCV 普及初期における水素ステーション事業の諸課題を踏まえ、関係各社がそれぞれの役割(インフラ事業者…水素ステーションの整備・運営、自動車メーカー…FCV の普及拡大、普及初期の水素ステーションの運営支援、金融機関等…ファイナンス等の支援)を果たし、協調することで、FCV 需要の最大化が狙える水素ステーションの戦略的な整備と、それを踏まえた着実な FCV の普及を目指すべき、との考えに基づくものである。

協業の具体的な形態として、協業 11 社は 2017 年内の新会社の設立を検討した上で、当該新会社による水素ステ-



水素ステーションの本格整備で燃料電池自動車の普及が期待される

ーションの整備・運営支援に関する新たな施策の実施による着実な整備促進、規制見直しを含む整備コストの低減及び運営の効率化への取組を通じ、FCV の普及拡大と水素ステーション事業の早期自立化、ひいては我が国の水素社会の実現に貢献することを目指すことになる。

話題のニュートラック新製品情報・新情報

発電システム…トヨタ自動車

元町工場ハイブリッド発電システム実証開始 燃料電池とMGTで高い発電効率を達成

トヨタ自動車(株)は、固体酸化物形燃料電池(燃料電池 = SOFC : Solid Oxide Fuel Cell)とマイクロガスタービン (MGT : Micro Gas Turbine) を組み合わせた加圧型複合発電システム(ハイブリッド発電システム)を、愛知県豊田市の

元町工場敷地内に設置し、実証運転を開始した。今回の実証は、本システムを工場の自家発電設備として使用し、エネルギー効率、運転性、耐久性を検証・評価することを目的としている。

ハイブリッド発電システムは、天然ガスを改質して取り出した水素と一酸化炭素を使い、燃料電池とマイクロガスタービンのそれぞれで発電する二段階の発電機構を採用しており、定格出力は 250kW である。加えて、発電で生じる排熱を、エネルギーとして活用するコージェネレーション(熱電併給)を採用している。

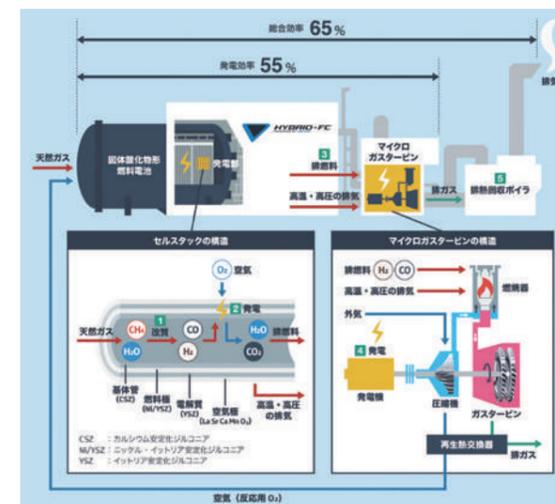
二段階の発電により、高い発電効率(55%)を達成するとともに、コージェネレーションの採用により、総合効率(65%)を高めており、低炭素社会実現に向けた有効な技術と位置付けている。なお、発電された電力と排熱は、元町工場内で使用される。

今回導入したハイブリッド発電システムは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「円筒形 SOFC-マイクロガスタービンハイブリッドシステムの市場投入に向けた技術実証」の一環として実施するもので、トヨタおよびトヨタ子会社である(株)トヨタタービンアンドシステムと三菱日立パワーシステムズ(株)が共同開発している。

トヨタは、今回のハイブリッド発電システムの導入と実証結果などを踏まえ、工場内での効率的な水素活用技術の開発と導入を進め、2015年に発表した「トヨタ環境チャレンジ 2050」の一つである、「工場 CO₂ゼロチャレンジ」の実現に向け、工場 CO₂排出量低減の取り組みを着実に進めていく計画だ。



愛知県豊田市の元町工場敷地内に設置されたハイブリッド発電システム



高い発電効率を達成するハイブリッド発電システムの概要

話題のニュートラック新製品情報・新情報

サービス拠点…いすゞ自動車

いすゞがインドシナ・メコン地域に トラックサービス拠点“Truck Service Factory”開設

いすゞ自動車(株)は、海外市場におけるアフターセールス体制の強化、ユーザー満足度の向上を図ることを目的に、Truck Service Factory (トラック・サービス・ファクトリー = TSF) を、インドシナ・メコン地域におけるクロスボーダー物流の要衝であるラオス南部、サワナケット県に開設し、2017年5月に営業を開始した。

TSF が位置するサワナケットは、ミャンマー、タイ、ラオス、ベトナムを結ぶ東西経済回廊と中国、ラオス、カンボジアを結ぶ中央経済回廊を利用するインドシナ・メコン地域におけるクロスボーダー物流の最大結節点であり、日系を含む多くの物流企業が越境輸送事業を展開している。

TSF ではいすゞ車に限らず、あらゆる商用車メーカーのアフ

ターサービスを行うことで、今後も増加が予想される越境物流における「運ぶ」を、日本品質の高度なアフターサービスで支え、



商用車のアフターサービスを行う拠点をインドシナ・メコン地域にいすゞが開設

インドシナ・メコン地域の経済発展に貢献して行くことになる。
あわせて、アフターサービスを通じて把握する様々な情報を通じ、現地での実際の商用車の使われ方を熟知することで、ユーザーが満足する「ものづくり」と「稼働サポート」体制の実現を目指す考えだ。

■新会社概要

- ◇名称：ISUZU Truck Service Factory Lao Co.,Ltd.
(いすゞトラック サービス ファクトリー ラオス)
- ◇所在地：ラオス人民民主共和国サワナケート県・Savan-

Seno SEZ Zone B1 (サワン・セノ経済特区 B1 ゾーン)

- ◇代表者：樺山 麻樹
- ◇事業内容：商業車の修理・点検・整備、補修用部品販売、市場情報の収集
- ◇資本金：860,000 米ドル(約 1 億円)
- ◇設立年月：2015 年 12 月
- ◇営業開始：2017 年 5 月
- ◇出資比率：いすゞモーターズインドチャイナ(いすゞモーターズアジア 100%) 80%、ISUZU LAO VSA 20%

話題のニュートラック新製品情報・新情報

タイ販売会社…タダノ

市場ニーズ対応とシェアアップを目指し カーゴクレーン販売会社をタイに設立

(株)タダノは、タイでのカーゴクレーンの販売強化を目指すため、タイの代理店である Italthai Industrial Co.,Ltd. (イタルタイ・インダストリアル= ITI 社)との間で、合弁会社の設立に合意した。

タダノグループは長期目標として「LE 世界 No.1」(LE = Lifting Equipment)を掲げており、海外事業の拡充とシェアアップに取り組んでいる。特に、カーゴクレーンの海外展開においては、タイを重点地域と位置づけ、2012年にカーゴクレーンの製造子会社である Tadano Thailand Co., Ltd.(タダノ・タイランド)を、翌 2013 年には販売・サービス会社である Tadano Thai Parts and Service Co., Ltd. (タダノ・タイ・パーツ・アンド・サービス= TPS)を、それぞれ設立した。

タイ市場におけるカーゴクレーンの更なるシェアアップを図るため、大型クレーンを中心にタダノの代理店を長く務めてきた ITI 社との間で、現地合弁会社の設立に合意。これによりタダノのメーカーとしての製品ノウハウと ITI 社の販売ノウハウを融合し、きめの細かい市場ニーズへの対応と、更なるシェアアップを目指すとしている。

■新会社の概要

- ◇社名：Tadano Italthai Co., Ltd. (タダノ・イタルタイ)
※ TPS 社の社名を Tadano Italthai Co., Ltd. に変更し、同社にタダノが増資し、ITI 社が資本参加。
- ◇設立：2017 年 5 月
- ◇所在地：Bangkok, Thailand (タイ王国バンコク都)
- ◇資本金：50,000 千バーツ(約 1.6 億円：1 バーツ= 3.2 円で計算)



タイのカーゴクレーン販売強化を目的にした合弁会社設立の調印式が 2017 年 4 月 20 日にタダノ本社で行われた



昨年パタヤのコンベンションホールで開催されたタダノ新型搭載クレーン発表会場



高機能を搭載したタイ市場向けの新型「TM-ZT500」

- ◇出資比率：タダノ 49%、ITI 社 48%、MHCB Consulting (Thailand) Co., Ltd. 3%
※ MHCB Consulting (Thailand) Co., Ltd. (MHCB 社) は、みずほ銀行系の現地コンサルティング会社。
- ◇事業内容：カーゴクレーンの販売
- ◇代表者：取締役社長・伊賀 英俊

話題のニュートラック新製品情報・新情報

南アフリカ事業…いすゞ自動車

いすゞトラックサウスアフリカ社の 完全子会社化とLCV事業の自社化

いすゞ自動車(株)とゼネラルモーターズ・カンパニー (GM) は、いすゞが南アフリカ市場での商用車及びピックアップトラック事業の強化を図る目的で GM サウスアフリカ(General Motors South Africa = GMSA)からいすゞトラックサウスアフリカ(Isuzu Truck South Africa = ITSA)へピックアップトラック事業を移管することで合意した。

また、いすゞは、ピックアップトラック事業の移管に先駆け、現在 GMSA が株式の 30%を保有する、いすゞの商用車の組立・販売会社、ITSA を完全子会社化し、「ISUZU MOTORS SOUTH AFRICA (仮)」に社名を変更する予定となっている。

いすゞは、南アフリカ市場で長期的に成長するための基盤を構築するため今後、更なる商用車及びピックアップトラックの販売、マーケティング、アフターサービスの強化を図って行

く計画だ。

■会社概要

- ◇会社名：いすゞモーターズサウスアフリカ(仮)【ISUZU MOTORS SOUTH AFRICA (仮)】
- ◇社名変更：2017 年 6 月予定
- ◇所在地：南アフリカ共和国 ヨハネスブルク市
- ◇代表者：菅原 浩明
- ◇主な事業株主：いすゞ 100%
- ◇事業内容：南アおよび周辺国向けのいすゞ商用車及びピックアップトラックの組立、販売、アフターサービス。
※ピックアップトラックの組立、販売、アフターサービスは、2018 年 1 月以降を予定。
- ◇資本金：8,000 万ランド(約 6.5 億円)



いすゞのピックアップトラックは南アフリカ市場でも人気の車種となっている

◇事業計画:2018年度…252,800千パーツ(約8.1億円)

■ ITI 社の概要

◇社名: Italthai Industrial Co.,Ltd.

◇所在地: 2013 New Petchburi Road, Bangkapi, Huay Kwang, Bangkok, 10310 Thailand (タイ王国バンコク都)

◇事業内容: 建設機械の販売・アフターサービス

◇代表者: Yuthachai Charanachitta CEO Italthai Group
/ Adis Peukpattanaruks CEO Italthai Industrial Co.,Ltd.

◇従業員数: 484名

◇売上高: 2015年12月期…40.38億パーツ(約129.2億円)



中・大型車用 10t 吊り「TM-ZT1000」シリーズ

話題のニュートラック新製品情報・新情報

産学教育連携…UDトラックス

ボルボ・グループが2014年締結の上智大学との産学教育連携契約を更改

UDトラックス(株)傘下に持つボルボ・グループと上智大学(東京都千代田区/暁道佳明学長)は2017年4月20日、2014年に締結した産学教育連携契約の更改に調印した。

グローバル化牽引型大学として広く知られる上智大学は、UDトラックスが所属する多国籍企業のボルボ・グループとのこうした提携を通じて実践的な教育機会を創出し、グローバルビジネスの現場で活躍する人材の育成を目指す。一方、UDトラックスは、志の高い学生に対し就業体験などを通して人材育成機会を提供する。また同提携を通じて、くるまづくりの楽しさや世界を舞台にした商用車メーカーの事業展開のダイナミズムを伝えて行くとしている。

2014年度からスタートした3年間のプログラムでは、授業科目を共同開発し開講。グローバル企業の経営戦略の策定方法やこれに基づく組織の成り立ち、ビジネス現場での実践例などを講義した。ボルボ・グループの国内外の拠点で1~3カ月間のインターンシッププログラムを提供し、さらに全学部を対象とした奨学金制度も創設した。また、ボルボ・グループが協賛した「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2015」に上智大学の学生を招待するなど、その内容は多岐に渡っている。こうした一連の活動がUDトラックスおよび上智大学双方に評価され今回の契約更改に至ったもの。新しいプログラム期間も3年となる。

■過去3年間(2014~2016)の主な実績

- ・共同開発講義を受講した上智大学の学生数(のべ人数): 657
- ・共同開発講義に講師として参加したボルボ・グループ従業員数(のべ人数): 33
- ・インターンシップに参加した学生数(日本国内拠点): 15
- ・インターンシップに参加した学生数(アメリカ合衆国、フランス): 3
- ・奨学金を受けた学生数: 15

調印式に出席した上智大学の暁道佳明は学長は、「上智大学ではグローバル社会への対応として、改革的な取り組みを実施しています。学生に提供するものを学内の場に限定せず、グローバル社会を展望するため、経済やビジネスについて学ぶ場を提供する必要があります。この産学教育連携契約はタイミング・内容ともに、上智大学が望んでいたもので

あり、この産学教育連携を通じた3年間でグローバルにチャレンジすることを奨励するような環境を提供して頂いております。今回契約を更新することは大変喜ばしいことであり、今後も世界の中でユニークな人材開発の分野で連携していきたいと考えています」と述べている。

また、UDトラックスのヨアキム・ローゼンバーク代表取締役会長は、「私たちはUDトラックス従業員の持つ能力を高めることが最も重要な課題の1つであると思っています。前向きで向上心のある人たちがこそが、私たちが掲げる戦略目標を実現させるのです。これまで、私たちは新オフィスや国内のディーラーネットワークの構築に多く投資してきましたが、一番の投資は人材の育成でしたし、今後も継続的改善を図っていくつもりです。上智大学との教育連携は、この継続的改善をさらに向上させていく手助けになると信じています」と語った。

さらに、UDトラックスのイルバ・シェール人事担当シニア・バイスプレジデントは、「UDトラックスは、我々が重視する価値と企業文化、そして従業員の意欲向上に焦点をあてていくとともに、各人の自己開発や能力啓発、リーダーシップスキル習得などにもより一層力を入れていきます。上智大学と協働して、人材がいかに会社そして社会にとって重要であるかということに訴えていきます」と強調した。

UDトラックスが所属するボルボ・グループでは、グローバル人材の開拓・育成、および国際化を加速していく大学とグローバル企業の新たな形での協力関係構築を目的として、こうした産学教育連携を世界5カ国11校と提携している。最近では2017年3月に、これまでの実績が評価され、スウェーデンのショブデ大学との契約が更改されている。



ボルボ・グループと上智大学の産学教育連携契約の更改調印が埼玉県上尾市のUDトラックス本社ビルで行われた

話題のニュートラック新製品情報・新情報

資本提携…いすゞ&アップル

いすゞとアップルが資本業務提携によりグローバルでの中古車事業の取組を強化

いすゞ自動車(株)は、中古車の専門家であるアップルインターナショナル(株)(本社:三重県四日市市、久保和喜社長)の株式9.9%を約4億円で取得し、国内、海外での戦略的な資本業務提携を行うことでアップルインターナショナルとの間で基本合意した。

いすゞは、中期経営計画において、保有ビジネスの強化を目指しているが、この一環として中古車事業への取組を行っている。

アップルインターナショナルは、乗用車を中心に主に国内、タイにおいて中古車の流通を手掛け、充実したネットワークと豊富なノウハウを有している会社であり、両社は、この協業によりグローバルベースでの中古商用車ビジネス拡大を図ることになる。

いすゞは、「運ぶを支える」企業理念に基づいて、顧客、社会に貢献することを事業目的としているが、本提携によりいすゞの中古車の価値を高め、顧客に貢献すると同時に、商用車メーカーとして中古車のグローバル流通に積極的に関与することで、資源(中古商用車)の有効な活用を通じて地球環境を含めた社会貢献を目指すとしている。

経営理念として「FORWARD THE FUTURE」を掲げるアップルインターナショナルは、グローバルに自動車関連ビジネスを展開しながら、社会生活の改善と向上に寄与することを使命としている。また、平成29年度よりグループスローガン「ビジョナリーカンパニー」(多様な人材の力を成長エンジンに)を掲げ、グループ会社とのシナジー効果を前提に、従来の乗用車に加え商用車の中古車事業のグローバル化に積極

的に取り組む考えである。

同社の主要マーケットであるタイをベースに、新興国への輸出販売事業を積極的に展開している。タイで8年前にインターネットを利用した中古車オートオークション会社の「アップルオートオークション(タイランド)」を設立し、現在タイの中古車オートオークション業界で高いシェアを占め、年間7万台を取り扱うまでに成長している。

また、いすゞはタイの子会社でLCV(ピックアップトラック)を年間20万台以上生産しており、タイでのLCV生産・販売において高いシェアを占めている。アップルオートオークションでもいすゞの中古車取扱が近年増加傾向となっている。今後、タイの景気回復に伴う新車販売台数の増加による中古車流通量の拡大も見込まれている。

■アップルインターナショナル会社概要

◇会社名: アップルインターナショナル株式会社

◇所在地: 三重県四日市市日永2-3-3

◇代表者: 久保和喜

◇設立: 1996年1月12日

◇事業内容: 中古車輸出事業、中古車買取・販売事業

◇資本金: 4,816百万円



話題のニュートラック新製品情報・新情報

助成事業…日野自動車

2017年度日野自動車グリーンファンド 環境保全活動を行う団体の助成事業募集を開始

公益財団法人日野自動車グリーンファンドは、自然環境保全活動を行う団体・グループ・個人を対象に、2017年度助成事業の募集を2017年5月16日より開始した。

日野グリーンファンドは、1991年に日野自動車(株)の出資により設立されて以来、26年にわたり“環境緑化活動の支援”や“自然保護活動の普及”等の活動への支援を継続して行っている。2017年度も、助成活動を通じて「社会環境との調和」という財団設立の基本理念の実現に努めていくとしている。

■応募要領

1. 助成対象事業

- (1) 自然環境保全に資する樹木や草花の植樹の実施
- (2) 自然環境保全活動の実施
- (3) 自然環境保全に資する調査や研究の実施
- (4) 自然環境保全に資する教育や諸啓発活動の実施

【助成対象とならないもの】

- (a) 営利を目的とするもの、また営利につながる可能性の大きいもの。
- (b) 集会の開催、海外への出張、機械・備品の購入のみを目的としたもの。
- (c) 活動推進者側の便利さのみを目的とした機械・備品などの購入・賃借。
- (d) 学位論文等、個人的研究に相当するもの。
- (e) 単なる趣味と判断されるもの。

(f) 申込みにおいて、本応募要領及び助成金申請書の規定に合致しないもの。

2. 助成対象者

- (1) 前記に係わる活動・研究を行う団体・グループ・個人等
- (2) 申請者の条件
 - ① 活動の基盤が日本国内であること。
 - ② 団体については、原則として設立2年以上を経過しており、活動実績のあること。
 - ③ 日本語での応募であること。

■助成金額：総額 900 万円(予定)

■助成対象期間：2017年11月1日～2018年10月31日

■応募方法：ウェブサイト内にある申込用紙に必要事項を記入の上、助成申込先まで郵送。

■募集期間：2017年5月16日～2017年7月31日(当日消印有効)

■助成申込先/問い合わせ先

〒191-8660 東京都日野市日野台 3-1-1
公益財団法人日野自動車グリーンファンド 事務局
TEL042-586-5369 FAX 042-586-4923



話題のニュートラック新製品情報・新情報

不正改造車排除…全ト協

トラック運送業界での不正改造車排除運動 6月1日から30日の1ヶ月間重点実施

わが国の交通事故の発生件数の現状からすると、依然としてその改善が求められる状況である。暴走行為や過積載等を目的とした不正改造車は、安全を脅かし道路交通の秩序を乱すとともに排出ガスによる大気汚染、騒音等の環境悪化の要因のひとつにもなっている。

このような状況を鑑み、国土交通省を中心とした「不正改造車を排除する運動」が展開されている。(公社)全日本トラック協会(全ト協)としても、トラックを対象を絞り、全国的に不正改造車を排除するため、各都道府県トラック協会の協力を得て、積極的な運動を展開することになった。

「不正改造車排除運動」は年間を通じた運動だが、「不正改造車排除強化月間」として平成29年6月1日(木)から6月30日(金)までの1ヶ月間、特に重点をおいた運動を実施する。

■重点とする不正改造項目

- (1) 前面ガラスならびに運転者席及び助手席の窓ガラスへの着色フィルム等の貼付(貼付状態で可視光線透過率

- (2) 前面ガラスへの装飾板の装着
 - (3) 直前直左の周辺状況を確認するための鏡、又はカメラ及び画像表示装置の取外し
 - (4) 灯光の色が不適切な灯火器及び回転灯等の取付け並びに保安基準上、装備が義務化されている灯火器(例：側面方向指示器)の取外し
 - (5) タイヤ及びホイール(回転部分)の車体外へのはみ出し
 - (6) 騒音の増大を招くマフラーの切断・取外し及び騒音低減機構を容易に取り外せる等の基準不適合マフラーの装着
 - (7) 土砂等を運搬するダンプ車の荷台さし枠の取付け及びリアバンパ(突入防止装置)の切断・取外し
 - (8) 基準外のウイング(エア・スポイラ)の取付け
 - (9) 不正な二次架装
 - (10) 大型貨物自動車の速度抑制装置の取外し、解除又は不正な改造、変更等
- (11) ディーゼル黒煙を悪化させる燃料噴射ポンプの封印の取外し
- (12) 不正軽油燃料の使用



話題のニュートラック新製品情報・新情報

自動車生産…トヨタ車体

国内自動車生産累計台数3,000万台を達成 ユーザーの目線に立ったクルマづくりを継続



トヨタ車体はトラックボデー専門メーカーとしての独立以降、各種の車両生産を行ってきている

トヨタ車体(株)は2017年4月10日、国内での自動車生産累計台数3,000万台を達成した。

これは、1945年8月にトヨタ自動車工業(株)(現トヨタ自動車(株))から分離独立して以来、71年8ヵ月での達成となる。

同社は、トラックボデー専門メーカーとして産声を上げて以来、完成車両メーカーとしての歩を進

【生産台数の推移】

1979年 10月	500万台
1990年 8月	1,000万台
2001年 1月	1,500万台
2004年 10月	2,000万台
2010年 4月	2,500万台
2017年 4月	3,000万台

め、キャブのオールスチール化に成功した「BXトラック」や、量産小型バスの「トヨタライトバス(現コースター)」、モノコックボデーを採用した商用車「ハイエース」、ハードトップの乗用車「コロナ」

【生産累計上位5車種(2017年3月末時点)】

ハイエース	約615万台
ランドクルーザー	約566万台
ヴォクシー・ノア・エスクァイア	約217万台
エスティマ(エミーナ・ルシーダを含む)	約204万台
トヨエース	約202万台

*3,000万台には、2002年から岐阜車体工業(株)へ生産委託している台数分100万台と2004年に車両事業統合したアラコ株式会社の車両生産分500万台を含む

など、いくつかの国産初の技術を成し遂げ、初代社長である豊田喜一郎氏の掲げた『クルマづくりを通して人々の暮らしを豊かにしたい』という理念の実現に向けて取り組んできている。

その後も、多様化するライフスタイルに応えるため、「ランドクルーザー」や天才タマゴのキャッチコピーで親しまれた「エスティマ」、ならびに「ヴォクシー・ノア」や最上級ミニバン「アル

ファード・ヴェルフィア」を世に送り出し、ユーザーに愛されながら生産台数を伸ばしてきた。

そして2016年4月からは、トヨタ自動車の製品軸カンパニーのひとつである、バン・トラック・ミニバン・SUVを担う「CV Company」の中核として、世界中のユーザーの目線に立ったクルマづくりを続けていくとしている。

話題のニュートラック新製品情報・新情報

コンテスト…モリタホールディングス

全国の小学生から999作品の応募 未来の消防車アイデアコンテストの結果を発表

(株)モリタホールディングスは、全国の小学生を対象とした「第12回未来の消防車アイデアコンテスト」を開催。厳正なる審査の結果、宮城県遠田郡在住の小学6年生(応募当時)、只埜 空(ただの そら)さん、石川県加賀市在住の小学5年生(応募当時)、大下 瑠己(おおした るい)さんの2作品が最優秀賞に選ばれた。

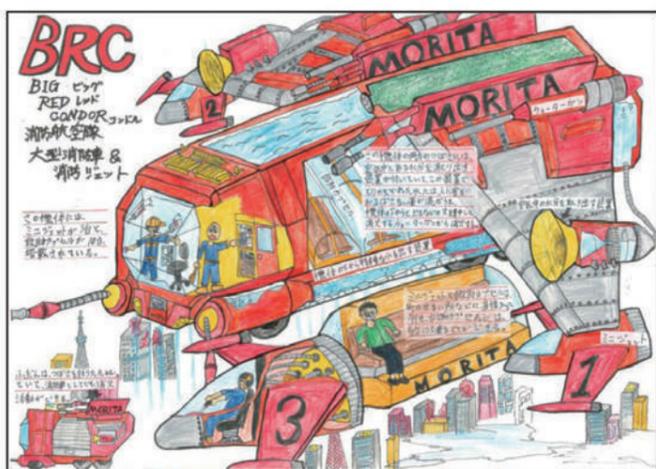
このコンテストは、全国の小学生を対象に夢のある「未来の消防車」をテーマとした作品を募集するもの。「消防車にこんな機能があったらいいのに」、「いざというときにこんな消防車があったらいいのに」等、小学生の豊かな想像力で、アイデア豊富な「未来の消防車」を応募してもらうものである。

第12回目となる今回は、999作品の応募があり、最優秀賞2名の他、23名の作品が入賞作品として選ばれ、入賞者にはモリタオリジナルグッズがプレゼントされた。また、最優秀賞に選ばれた只埜さんと大下さんは、日本最大級の消防車製造・メンテナンス工場であるモリタ三田工場(兵庫県三田市)へ招待され、国内の消防車の過半数を生産する現場を見学した。

ちなみに、兵庫県三田市テクノパーク内にあるモリタ三田工場は、敷地面積5.7万㎡(東工場3.7万㎡・西工場2.0万㎡)を誇る消防車製造工場で、ポンプ車・水槽車・化学車・原液搬送車・はしご車・高所放水車・空港用化学車などの各種消防車を年間約700台生産している。

なお、最優秀賞の2人が「がんばって描いたところ」として、只埜さんは「①耐熱ボディ、②自由に方向を変えられる4連装の高圧放水銃とフレキシブル送水管を10本装備、③空気圧で自由に曲がり、伸縮するカテーテル型救助スライダー、④集中治療室」、大下さんは「このコン

テストには毎年出しているけど、前回の時は、少し現実ばなれしていた消防車を描いていたけど、今回は近い内に、作れるかもしれない消防車を描いてみました。こんな消防車があったら、いろいろな災害にも対応できると思います」と回答している。



未来の消防車アイデアコンテストの最優秀賞に選ばれた、只埜(小学6年生)さん(上)と、大下(小学5年生)さん(下)の作品

遂に完成!
長年の夢
世界初!!
PAT.P

運転手さんの技術・努力が!!

省エネⒶ運転 自動車用

ドライブポイントメーター

自動車用

- 燃料…ガソリン、軽油、バイオ、電気、ガス他
 - 車種…大型・中型・小型トラック、乗用車、軽乗用車
- 総てに共通に使用出来ます!!

現在使用の車輛そのまま
燃料節約が年間30%以上も出来る!!

●詳しくは下記を良く検討して下さい。
又、ご確認の為の相談、貸出しメーターもご用意致しました。



●メーターサイズ:
約(H)35×(W)65×(L)100mm

取付/配線等

- ①メーターは運転席、ダッシュボード等、運転に支障をきたさない位置に貼り付けて使用します。
- ②電源、ACC、スピードメーター、アクセルペダル、スイッチ、コード(5本)等、取付は簡単です。

使用方法

- ①目的地に向かってスタートする時、リセットボタンスイッチを押して下さい。
Pointは100を、Hourは000.0が表示されます。エンジン作動中はACCランプが点灯し、Hourが積算されます。
Pointは運転方法にて⊕表示(省エネ) ⊖表示(消エネ)
(例) ⊕表示…101~175 } このポイント数値は取付車両の標準走行距離 km/ℓ を100と表わし、
⊖表示… 99~ 70 } 省エネ⊕表示、消エネ⊖表示します。数値は標準走行 km/ℓ の実質走行 % です。
“実験走行(一般道において)180 Pointクリア” 達成!!

②消費燃料計算は

	全走行距離(km)	÷	(標準走行 km/ℓ × Point 000%)	=	消費燃料(ℓ)
(例)-①	500km	÷	(5 km/ℓ × 100%)	=	100.00ℓ
(例)-②	500km	÷	(5 km/ℓ × 85%)	=	117.65ℓ
(例)-③	500km	÷	(5 km/ℓ × 115%)	=	86.96ℓ
(例)-④	500km	÷	(5 km/ℓ × 150%)	=	66.67ℓ

(参考標準走行 km/ℓは車種によって2~20 km/ℓと多様です。)

省エネ運転⓪ / 消エネ運転ⓧ

- ①一般的な省エネ運転はもとより、出来るかぎりの運転努力が高い省エネPointになります。

例-①~④の通り、同じ500km走行でも…
66.67ℓと117.65ℓでは¥7,657 (@150/ℓの時)の差が生じます。

運転手さんの努力が燃料節約につながります!!



ミックワークス株式会社 本社 〒228-0015 神奈川県座間市南栗原1-8-13
TEL 0462-51-5011 FAX 0462-53-1439